



夢の本棚へ

発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代 表：金戸 美紀子
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

『こどものとも』に込めた思い⑥ 幼稚園・保育園を通して絵本を家庭に普及

観察絵本『キンダーブック』

◆私が生まれた翌年、一九二七（昭和2）年にフレールベル館より『キンダーブック』が創刊されました。私は幼稚園で、毎月もらっていましたが、先生が手渡してくださるのが、ほんとに喜びでした。◆それを持って帰ると、母親が寝る時に読むんですね。ところが、『コドモノクニ』を読んでもらっていると『キンダーブック』を読んでもらう時は違うんです。私はその頃見た『キンダーブック』、絵は何となく漠然と出てくるんですが、内容はほとんど覚えていません。◆観察絵本、保育教材としては見事なものです。自然観察とか社会観察とか生活とか、いろいろ出てきますけど、ほんとによくてできています。さす

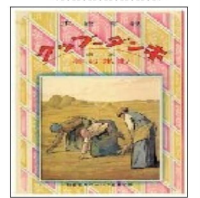
がに「倉橋惣三」って人は、すごい人だったなあ。てなあってことが分かりました。◆「観察」が保育内容に 倉橋先生はずっとヨーロッパに暮らして、フレールの考え方が保育の仕方とか、いろいろなもの吸収されて日本に帰られて、一九二六（昭和元）年、文部省を動かして幼稚園の保育内容に「観察」というのを取り入れられたんです。◆これは、子どもたちに正確な情報を与えるという意味のある内容だったんですけれども、現場の人が困っちゃったんですよ。観察ってのが文部省からいきなり入ってきたから、何していいかわかんない。観察ってのは何するんだというところになって、それ



『こどものとも』以前の月刊絵本（下）

- ★保育絵本『キンダーブック』の登場と終戦まで：『キンダーブック』フレールベル館から観察絵本として登場
1927（昭和2）年；『ミクニノコドモ』（誌名変更）1942（昭和17）年、1943（昭和18）年に休刊；『子供之友』『コドモノクニ』も休刊；『日本ノコドモ』国民図書刊行会 1945（昭和20）年
- ★『母の友』のかげり：『母の友』を自ら創刊、『岩波の子どもの本』岩波書店 1953（昭和28）年
- ★月刊「物語絵本」刊行に踏み切る：『こどものとも』を創刊；毎号1冊に1つの物語、一人の画家が絵を描く物語絵本という構想、中綴じの形で毎月発行 1956（昭和31）年

をいち早くキャッチしたフレールベル館さんが、教材を発行されたんです。◆一番最初、本屋さんに出されたんですが、売れなかつたんですよ。それで、営業の方、経営者の方がほんとに考え抜いて、幼稚園や保育園を通して直接家庭に販売するという方法を取るといいんじゃないかと、先生方を動かして家庭に普及するという販売方法に変えられたんです。特に、倉橋先生のことを非常に



フレールベル館の功績

◆日本の家庭に絵雑誌が普及するということ大きな文化を作ったんですよ。これはもう、フレールベル館さんの大きな功績です。一九三〇（昭和5）年前後に10万冊売れたんですよ。当時の幼稚園の園児数よりも売れてたんですよ。◆あれだけの質のものが、一九三〇年代に日本の10万の家庭に行き渡っていたってことは大変

なことだと思います。日本の絵本文化を考えた時に見過ごすことができないんです。それだけ日本には、文化を受け止める素地があったんですよ。もちろん、日本は識字率も高いですけど、でも、そういった積み重ねが、ずっとなんかまで生きてるわけなんです。◆幼稚園を通して絵本を普及するなんてことをやっているところは、日本しかありません。それから月刊の絵本が出ている国も、ほんとに少ないです。私が出した時に、月刊で絵本を出している国ってのは、私の知ってる範囲ではチェコ、スロバキア、イタリア、日本です。日本は、日本人の文化、あるいは子どもに対する考え方が非常に優れているところだと思います（つづく）
